

**「主体的・対話的で深い学び」につながる学習指導法の改善  
～少人数・複式指導におけるICT機器等の活用を通して～**

十島村立諏訪之瀬島学園

## 1 研究のねらい

本校は、学校教育目標である「自分をみがく 共にみがく 未来をきずく」を基に、一昨年から『主体的・対話的で深い学び』につながる学習指導法の改善を研究主題に掲げ、研究・実践に取り組んできた。今年度は、本校の特色である少人数・複式指導を改めて見直し、ICTの活用や思考・判断の場の工夫など学習指導法の改善に努める指導を全職員で目指し、研究していくこととした。

## 2 研究の概要

今年度は、下記の仮説を立て、本研究の主題に迫る研修を進めてきた。

仮説1 少人数・複式指導のよさを生かし、効果的にICT機器等を活用すれば、さらに主体的に学ぶ子供が育成されるのではないか。

仮説2 主体的に思考・判断する場を工夫すれば、自分の思いを進んで伝えようとする子供が育成されるのではないか。

## 3 研究の内容

(1) 研究内容1 単元を見渡したり評価の重点化をしたりする等の単元指導計画作成の工夫

ア 単元を見渡せる第一次の授業の工夫      イ ゴールの明確化と指導計画の掲示

ウ 評価の重点化（ウとエは一体）

・ 知識・技能      ・ 思考・判断・表現      ・ 主体的に取り組む態度

エ 本時ごとの自己評価の累積

(2) 研究内容2 少人数・複式学級のよさを生かし、効果的にICT機器等を活用する工夫

ア ロイロノートの活用      イ 具体物や図等の教材教具の作成      ウ ヒントカードの工夫

(3) 研究内容3 主体的に思考・判断する場の工夫

ア 相手に伝わりやすくする工夫（可視化の工夫）      ・ ホワイトボード

イ 考えをひろげ、深める場の工夫      ・ 共通点、相違点の比較・新たな気付きへの対応

## 4 研究の実際

本校では、校内研究テーマに関する仮説の検証を目指し、一人一授業を校内研修の年間計画に位置付け、研究に取り組んできた。令和7年6月26日（木）には、5・6年複式学級の算数科で研究公開を行った。主体的に思考・判断する場の工夫として作成している単元指導計画（単元計画チェックシート）の主体的な活用と効果的なICTの活用、深める段階での基礎・基本の定着を目指した練習問題の取組等を検証する授業を目指し、研究協議では参加者から多様な意見を出していただいた。

(1) 視点1「単元計画チェックシート」について

単元を見通したり、評価の重点化をしたりするなどの単元指導計画の工夫をしてきた。公開授業では、「単元チェックシート」を授業の始めに子供たちが確認して、本時の学習を見通しをもって学習に取り組めるようにした。授業の終わりでは、本時を振り返り、自己評価できるように計画したが、時間が足りなくなり、そこまでできなかったのが課題となった。

児童生徒「小説のかけ算」単元計画チェックシート

自分のペースでスピードをコントロールしていき、できなかったところは書いて、自分の理解度をチェックしよう。

時	学習内容 (なにを学習するか)	日付	自分の理解度 (○で囲む)	振り返り (この時間できたこと、気づきなど)
1	単元計画を立て、本時の授業は準備しよう。	/	😊😊😊😊😊	
2	小説のよさを知り、(小説)×(小説)も計算できるかを考えよう。	/	😊😊😊😊😊	
3	(小説)×(小説)の計算のしかたを考えよう。	/	😊😊😊😊😊	
4	(小説)×(小説)の計算のしかたを考えよう。	/	😊😊😊😊😊	
5	(小説)×(小説)の計算のしかたを考えよう。	/	😊😊😊😊😊	
6	いろいろな小説のかけ算を考えよう。	/	😊😊😊😊😊	
7	かけ算がより大きい数とより小さい数では、積の大きさはどうなるかな。	/	😊😊😊😊😊	
8	小説のよさも、算数のかけ算のよさも、両方よく理解しよう。	/	😊😊😊😊😊	
9	本時の学びを振り返り、課題をしよう。	/	😊😊😊😊😊	
10	テストで自分の力を試みよう。	/	😊😊😊😊😊	

(2) 視点2「ICTの活用」について

本時の学習課題を子供たちが自力で解決する際、困った時にヒントカードで学習に取り組めるようにした。ロイロノートでいくつかのヒントカードを用意し、自分で選択して学習に生かせるようにした。自力解決できる児童生徒には必要ないが、いざというときに見ることができるヒントがあるので、自分に合った学習ができる。複式指導において、主体的に学習を進めることができる手立てとなっている。

(3) 視点3「基礎・基本の定着」について

本時の学習の定着を図るために、様々なレベルの練習問題をロイロノートで配布し、児童生徒に取り組ませた。児童生徒は自分で選択して、それぞれの理解度に合った問題に取り組んだ。時間内に使用しない場合には、次時で振り返りに使用することができるようにした。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- 重点的に指導する箇所を確認したり、児童生徒が見通しをもって学習に取り組んだりするために単元指導計画を作成し、授業に生かすことができた。これにより、本時の導入において同時間接指導が可能になりつつある。児童生徒用の「単元計画チェックシート」は、主体的に学習に取り組んだり、自己評価して振り返ったりすることができるものとなった。
- 少人数・複式学級のよさを再確認し、効果的なICTの活用を研究することができた。

(2) 課題

- 今年度取り組み始めた「単元計画チェックシート」については、内容を検討しつつ、より多くの教科でも取り組んでいきたい。
- 少人数・複式指導における効果的なICTの活用については、板書とノートとの一体化や対話的な活動での活用を通してより深い学びにつなげていきたい。

6 今後の取組

『主体的・対話的で深い学び』につながる学習指導法の改善」を研究主題にし、ICT機器活用を中心に学習指導法の改善に3年間取り組んできた。今年度は、児童生徒に委ねる場面とのバランスを踏まえた指導計画も視点とし、「少人数・複式指導」を副主題に掲げ取り組んだ。これからも引き続き「少人数・複式」のよさを生かしながら、ICT機器を活用した効果的な学習指導法の改善に向け、職員間で日々の情報交換をしたり、研究授業をしたりし児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の力を身に付けられるように研修に努めていきたい。